

通常の楽器は、二人で演奏するためには二台が必要である。ところが、ピアノの場合、二台のピアノで弾く作品と一台を二人で弾く作品がある。後者を日本語では「連弾」というが、英語では「二台のピアノ」に対して「四手のピアノ」といつている。四手のピアノ作品がいつ頃から始まったのかは定かではないようだが、モーツァルトが作曲したいくつかの「四手のピアノのためのソナタ」は、かなり早い時期の作品である。シューベルトにも「四手のための幻想曲へ短調」という作品があるが、彼の晩年の思いに胸を打たれる名曲として知られている。

「連弾」の面白さは、息のあった二人の調和であるが、それは音楽の面だけではなく演奏者のちょっとした仕草にも表れる。男女の「連弾」が比較的多いのは、聴いて楽しいだけでなく、見て楽しいからかもしれない。このように、芸術の世界では、1 + 1 の答えが2よりも大きくなることに違和感がない。

曾禰達蔵と中條精一郎の組み合わせは、建築においてもそのようなことがありえたのではないかと思われる一例である。曾禰達蔵(1852-1937)は、辰野金吾とともに工部大学校でジョサイア・コンドルに学び、その後恩師コンドルの紹介で三菱に入社し、丸の内の一連の三菱ビルの設計にたずさわった。1906年に三菱を退社した後に、単独で建築事務所を開いたが、1908年には中條精一郎をパートナーとして曾禰中條建築事務所を開設した。中條精一郎(1868-1936)は、東京帝国大学建築学科を卒業後、文部省の技師となり、札幌農学校などの建設にたずさわったのち、ケンブリッジ大学に留学した(1904-1907)。留学を終えた後、曾禰と一緒に設計事務所を開設した。

曾禰は、三菱時代に三菱三号館から七号館、三菱銀行神戸支店および長崎造船所の占勝閣などの設計を行っていたが、単独の設計事務所時代にはそれほど大きな仕事を引き受けていないようである。また中條についても、文部省時代の仕事としていくつかの重要な仕事を残しているが、単独の作品はない。

むしろわが国の建築史上においては、曾禰中條建築事務所が残した足跡に大きなものがある。曾禰中條建築事務所の最初の傑作は、慶應義塾大学図書館(1912)であろう。この三田の図書館は、重要文化財として現存している。オフィスビルに関しては、曾禰の関係で、三菱系の企業が多い。現存しないが、東京海上ビル(1918)、郵船ビル(1918)などである。また岩崎家熱海別邸(1935)も曾禰中條の設計といわれている。

とくに東京海上ビルは、わが国最初のアメリカ式近代オフィスビルであり、曾禰中條建築事務所の先進性が発露されたものである。この点については、留学経験の長い中條が果たした役割が大きいものと推測される。第一世代の建築家である辰野金吾は、鉄筋コンクリートに信頼をおかなかつたといわれている。曾禰達蔵も、鉄筋コンクリートによる設計を学校では学んでいない世代に属する。にもかかわらず、留学帰りの中條と組んで新しい工法に挑戦した曾禰の柔軟さは特筆すべきものがある。

曾禰中條建築事務所が手掛けた保険会社の建築は少なくなかったかもしれないが、資料で確認できるのはそれほど多くない。ここでは曾禰中條建築事務所の作品リストから外されることが多い、共同火災保険株式会社（以下、共同火災と略記）の関東営業所を取り上げたい。

共同火災は、同和火災の前身会社のひとつであるが、元々は東西の財界人が共同して明治 39 年に設立した損害保険会社である。設立後同社から関東系株主が抜け、次第に山口銀行系の損害保険会社となって、大阪を営業基盤とする会社となった。関東大震災では、関東を基盤とする会社ほどの打撃はなかったが、関東営業部と横浜営業部の拠点は崩壊寸前に陥った。その後、両営業部は、仮住まいで営業を続けていたが、同社の創立 25 周年にあたる昭和 6 年には、関東営業部ビルの建設に着手し、昭和 7 年 8 月 15 日に竣工した。

曾禰中條建築事務所が設計した営業部ビルは、本社ビルでないために同和火災の社史（『同和火災 50 年史、通史』平成 7 年）を除いて、建物をしのぶ画像が手に入らなかった。最近、古書店より関東営業部新築の折の写真帳を入手したので、そこからいくつかの画像を掲載したい。関東営業部ビルの正面の写真は、社史に掲載されたものと同一である。社史の紹介によれば、「鉄筋コンクリート造、陸屋根、地上 6 階、地下 1 階、搭屋付、延べ 2,235.09 m²、高さ 28.9m で付近には視界をさえぎるビルもなく、遠くからもその偉容を眺望することができた」という。ちなみに社史には、設計者についての情報は書かれていないが、写真帳には曾禰中條建築事務所と明記されている。

社史によれば、社のシンボルとして使用されていたフェニックスの鳥像が外壁にはじめて飾られたというが、このことは、次の画像で確認できる。関東営業部ビルの屋上に確かに鳥の彫像が見られる。

ところで、この建物は銀座通りに面して建っていた。最後の画像は、「銀座通り」と称する東京の名所案内の絵葉書のうち一枚である。この絵葉書の中で、もっとも高い建物が共同火災の関東営業部ビルである。最初の画像とは反対側の壁面が見られるが、こちら側には「共同火災」の表示と非常階段がついていたことがわかる。

今回の連載では、曾禰中條建築事務所が担当した、保険会社の建築物として共同火災の関東営業部ビルを紹介した。曾禰がコンドルに協力して設計した丸の内の赤レンガと、曾禰中條のコンビで設計した共同火災関東営業部ビルのモダンのファサードを比べてみる時、曾禰達蔵という建築家の柔軟さをあらためて感じる。辰野葛西建築事務所など他にも共同経営者で運営された事例がないわけではないが、曾禰中條ほど成功した「連弾」はないのかもしれない。



共同火災関東営業部ビル正面



共同火災関東営業部ビル屋上（中央にフェニックスの彫像）



「銀座通り」の絵葉書より